

紛議中の大敷網問題

けふ第二回公判開廷

傍聴者廷外に溢る

千葉辯護士證人を申請

小名濱大敷網の漁業権争奪に係る高橋側より提起された漁業組合との契約確認受び損害賠償訴訟の第二回公判は本日午前十一時より平塚裁判所に於て千葉監督判事係りの許に開廷、原告側より下田小林の兩辯護士、被告側鳩山博士、高橋、千葉の三辯護士列席、傍聴者審判部の盛況にて雨降る廷外に迄溢れ各辯護士交々起つて大舌戦を闘はしたが兩者の主張は

(原告側)原告が小名濱江名兩組合と漁業貸賃の契約を締結したのは一つの確実なる債権である縣人外に許可を與へぬとの縣の意志は後日に至つて移命通牒された處に依つて見るに白井組合の兩者は通謀して原告の善良なる權利を冒したものである

(被告側)行政訴訟の判決に依れば縣人外不可の移命通牒は漁業許可の條件と認めざるを得ないが是れは單なる法的解釋に過ぎない、事實は佐瀬農商課長、川淵前知事其他の證言に依つて縣當局には縣人外に許可せぬ意志を有して居た事は明らかで其意志に基いて發せられたる許可は他縣人が之れを冒す事は出来ない故に行政裁判の判決は司法裁判を拘束するの力は毛頭なく白井對組合の登錄濟契約は他縣人の追隨を許さない

尙ほ千葉辯護士は縣人外不可の移命通牒のあつた際高橋氏は江名組合樓上に於て大敷網断念の意志を表明したとて其際居合はした太清左衛門、最上徳次郎の兩氏を證人申請し晝食喫飯の爲め休憩、午後一時から再開の筈 (正午記)

鹿島村議の當選者氏名

昨日の結果

石城郡に於ける村會議員選舉の皮切りとして各方面から注目された鹿島村議の改選は昨日午前八時より同村役場に於て執行、午後四時終了同冊分から開票の結果當選者左記の如くにて總數三百七十三票の内棄権十六票無効二票、また黨派別に依れば政友七、名民政五名である

- | | |
|----|--------|
| 三三 | 志賀 正哉 |
| 三〇 | 鈴木 聰次郎 |
| 三〇 | 黒木 儀顯 |
| 三〇 | 四家 重雄 |
| 二九 | 草野 庫太 |
| 二八 | 八代 利治 |
| 二八 | 箱崎 利助 |
| 二六 | 志賀久左衛門 |
| 二五 | 蘭部 嘉平 |
| 二四 | 鈴木 大藏 |
| 二三 | 高萩 民雄 |
| 二二 | 小松 源作 |
| 二一 | 點 |
| 一八 | 佐原 忠太郎 |
| 九 | 渡邊 勝興 |
- 鈴木醫院開業 縣會

南町裏の地價奔騰

大平町への躍進

躍進に伴ひ大平町建設の第一歩として官衙所在地に求めつゝあつた平町では數年前役場敷地として南町裏新川端に添ふ舊郡役所隣地を買収した 最近同敷地附近の長足なる發展に依つて地價が著しく高騰し當時の三倍以上に買手があつた状態なので是を賣却し新川以南平稅務所裏字堂根町に第四小學校敷地五千四百坪と同時に役場敷地二千二百坪を求むべく既に町會の意圖が決してゐるの目下土地交渉中で あるが右は一面ブローカー的な行爲とも觀らるるが平町今日の趨勢よりすれば經濟的にも且向後の發展に伴ふ地區の整理改正の點よりするも最も機宜の處置で一般から喜ばれてゐる

町有財産

平町委員會開く
平町有財産處分委員會は二日午前十一時より役場に開催役場敷地賣却その他の件に就き協議を遂げた

小學兒童 作品陳列

磐中主催で

平町縣立磐城中學校主催の石城郡下小學兒童作品陳列會は五日警中講堂に開催されるが當日の優秀出品校に對しては前年通り優勝額及び賞状を授與する筈

關西の旅から

五月一日(第七信)静岡の朝は微かな春雨に煙り聊か旅入に物淋しさを感ぜしめられた、七時四十三分静岡を立つて十二時三十分無事鎌倉に着き、櫻子の櫻子の参道を通り八幡宮に詣り、歴史に名高き大公孫樹物々しく昔を物語り顔に小さな緑の葉を微細に揺らして居りました、御假殿に詣り直ぐ頼朝のお墓を弔ひました、五輪小塔を立つて居りました、更に鎌倉宮に詣り薄暗い土牢や御寶物を涙ながらに拜し次に長谷の觀音露座の大佛を参り、電車で江の島に着き江の島神社に顔を入つた、江の島に前を通り岩家へ入り、物凄く窟岩に宿る滴が心の奥底まで冷やかにさして行く、吹き馴ぬ笛の音が洞の中に漂ひ、大岩私達は蠟の光を頼りに進みました、こゝを一巡りして連日の疲れを最も後の見學の林に抱いて岩本樓に着きました

平驛上棟式

四日に舉行
改築工事中の平驛舎は四日上棟式を舉行する筈

全力を傾注

鑛業稅委讓 運動を繼續

全國の鑛山所在地町村民が期成同盟會を組織し猛運動を續けて居た鑛業稅の町村稅委讓は衆議院を通過したに當り、貴族院で握りつぶしの厄に遭つたので期成同盟會ではあくまでこれが實現を計るべく既に諒解を得た衆議院方面は今日通りの運動を繼續するに止め貴族院に全力を注ぎ來議會の通過を計らんと準備を開始した

明日の豫氣天

午前中小雨
雨夕刻より良い方
よ向ふ

次の大祭まで

借金が消えない

それ程大が、りな!

釜戸の奴行列

石城郡渡邊村大字中釜戸鎮座の諏訪神社は村社ではあるがその大祭は七年に一回舊四月九日を以て行はれる慣例でその神輿供奉の行道は頗る古雅で繪に見える

古昔の 大名行列をの儘釜戸の奴或は泉の奴行列と呼ばれ相馬郡原町の野馬追祭と共に古典的行事とし全國にその名を知られ大祭日は近郷近在は勿論遠く各地からの參觀人で同地方

盛大な 大祭を舉行

は夥しい難路を呈するものが例となつてゐるが今年度は丁度七年廻りの大祭年に當り舊四月八日即ち來る十六日盛大な 大祭を舉行されることとなつたので同村では目下大祭準備に全力を注いでゐるが大祭の順序は先ず五月十五日に日笠揃ひの祭典あり十六日は泉村下川濱へ神輿渡御十七日日笠揃ひの祭典を以て大祭を終るのであるが大祭當日

泉驛を 中心に平驛

地方その他各地からの參觀人のため
から高萩間の臨時參觀列車を運轉すべく水戸運輸事務所では目下臨時列車の編成時間割等の研究中であるが近く決定發表される等因に古老に就いて同社の由來奴行列の由來等を聞くと

「時は聖武天皇の天平二年(すなはち約千二百餘年前)同村下小川村の漁師古口某と呼ぶ者漁網の中に一種異様な神靈が現れたので恭しく船に移し奉つたが此の土地の上方に和久臺と呼ぶ處があるから其處に移せとの神託があつたので漁夫古口某は處々方々を探査して遂に

磐女校の 通學路改修

六間門坂を

平町城山の磐城高等女學校へ通ずる六間門坂はあまりに急坂なため徒歩ですら困難を感じて來たので平町では右道路を四年度工事として改修することに大體決定したがこれが完成後は通學生ばかりでなく城山方面に

募集

文藝其他投稿

居住する者まで非常な便利を與へるので少なからず期待されてゐる